

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策401 仕事と生活の調和の実現に向けた広報・啓発（プラン91頁）

施策目標 ワーク・ライフ・バランスについての理解を深め、誰もが仕事や家庭、地域などの各場面において充実した生活を送ることができる社会の実現を目指します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①認知度 「名前も内容も知っている」	9.8% (全国)	16.7% (秋田市)	100% (秋田市)	B
②努力度 「努力している」	19.0% (全国)	34.6% (秋田市)	100% (秋田市)	

① 基準値：平成20年7月「仕事と生活の調和に関する特別世論調査」（内閣府）

中間値：平成24年秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査

② 基準値：平成20年8月「仕事と生活の調和に関する意識調査」（内閣府）

中間値：平成24年秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	0%	92%	8%

【委員からの主な意見(要約)】

- ワーク・ライフ・バランスについて理解している人が少ない。市民への啓発活動の継続が必要。
- 認知度を高める必要性があり、啓発活動の強化を図ること。

■課題と今後の対応方針

指標項目の認知度、努力度については上昇してきてはいるものの、まだまだ低い状況にある。引き続き、ワーク・ライフ・バランスに関する理解を深める機会を増やしていくことが必要であることから、市民に対する啓発活動を推進していく。

■22～23年度の取組・事業

- ワーク・ライフ・バランスに関する広報・啓発

■24～26年度の取組・事業

- ワーク・ライフ・バランスに関する広報・啓発

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策402 各種制度の広報・啓発と一般事業主行動計画の策定支援（プラン93頁）

施策目標 ワーク・ライフ・バランスの推進について、企業への周知と働きかけを一層進めるとともに、積極的に取り組む企業を応援します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①行動計画策定企業の割合 (101人以上の企業)	35.4%	100%	100%	A
②(新)育児休業取得者における男性の割合	—	5.7%	5.7%	
②(旧)男性の育児休業取得者がいる事業所の割合	0.4%	5.7%	5.0%	

- ① 基準値 : 平成20年度実績値
 中間値 : 平成23年度実績値
- ② 基準値 : 平成20年度秋田市労働実態調査
 中間値 : 平成23年度秋田市労働実態調査

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	77%	23%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- ②の目標値をもう少し上げた方がいいのではないか。
- 育児休業取得者数も把握しながら取組・事業を進めていくべきである。実感としてはあまり進んでいる感じはしない。
- 各企業における働きやすい環境づくりと取組・事業が相まっているのか、評価できる。今後も、さまざまな取組を通して、ワーク・ライフ・バランスの推進を試みてほしい。

■課題と今後の対応方針

一般事業主行動計画の策定義務企業の策定届出率は100%となっており、これまで実施してきた企業経営者・労働者向けの講演会の開催や入札参加者資格審査における優遇措置等の効果があったものと認識している。

今後も、秋田市企業情報データベースを活用した企業への情報提供やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組等を実施する企業の総合評価落札方式および建設工事入札参加資格審査における優遇措置等の取組を継続していく。

■22～23年度の取組・事業

- 育児休業制度等の周知および啓発
- 広報等を活用した好事例の紹介
- 研修会等への講師派遣
- 積極的に取り組む企業の社会的評価

■24～26年度の取組・事業

- 育児休業制度等の周知および啓発
- 積極的に取り組む企業の社会的評価

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策403 多様な働き方に対応した子育て支援（プラン95頁）

施策目標 保護者の様々な就労時間や就労形態に対応できる特別保育サービスの充実を図るとともに、保護者や家庭の諸事情に対しても、柔軟に子どもを受け入れられる体制を整えます。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「保育所や幼稚園に、希望したときに入れないこと」に悩んでいる親の割合	10.3%	13.2%	10%以下	B

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	23%	77%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 待機児童解消に向けた取組の推進をお願いします。
- 目標値の達成に向けて各取組を推進している状況はよく理解できる。今後も各種制度等の動向を注視しつつ、支援体制を整えてほしい。
- 待機児童解消策も確立しつつあり、引き続き体制の強化を図ってほしい。

■課題と今後の対応方針

待機児童解消策として、施設整備等を積極的に進めた結果、多様な保育ニーズに対応できる体制も整備され、特別保育事業については、目標値を上回る施設で実施している。

引き続き、各事業を継続実施するとともに、事業の周知を図っていく。また、子ども・子育て関連3法の施行を控えており、詳細な制度設計等、その動向を注視していく。

■22～23年度の取組・事業

- 多様な保育サービスの提供
- ファミリー・サポート・センター事業（再掲）
- 放課後児童健全育成事業

■24～26年度の取組・事業

- 多様な保育サービスの提供
- ファミリー・サポート・センター事業（再掲）
- 放課後児童健全育成事業

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策404 男女共生意識の啓発（プラン97頁）

施策目標 性別などの属性によって差別されることなく、一人ひとりの人権が尊重され、その個性や能力を十分に発揮できる社会の実現のため、男女共生意識の浸透を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること」に「家族・職場の理解が得られない」と答える割合	家族 : 3.3% 職場 : 13.1%	家族 : 3.0% 職場 : 15.2%	0%	B

基準値 : 平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値 : 平成24年秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	8%	92%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- いわゆるイクメンが増えていると聞かすが、家事・介護に関してはまだまだと感じるものであり、引き続きの取組の推進をお願いする。
- 家事・育児・介護を行っている割合は、女性がまだ圧倒的に多いと思う。あらゆる年代に対して、男女共生意識を持ってもらうことが重要である。
- 男女共生意識の浸透を図るために、啓発活動・意識調査を引き続き実施することが望ましい。

■課題と今後の対応方針

事業は順調に実施してきており、男女共生意識も浸透してきているものの、実際の家事・育児・介護などの男女の役割分担については、女性が行っている割合が高く、理想と現実の乖離が大きい。

引き続き、あらゆる年代に対して男女共生意識の浸透を図るための事業を展開していくほか、これまでの計画の内容を見直し、「第4次秋田市男女共生社会への市民行動計画」を策定し、推進していく。また、男女共生意識の浸透度等については「男女共生に関する市民意識調査」を行動計画策定の前年度に実施しており、その調査結果と合わせて評価していく。

■22～23年度の取組・事業

- 男女共生意識の啓発

■24～26年度の取組・事業

- 男女共生意識の啓発

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策405 父親の育児参加の促進（プラン98頁）

施策目標 家族が協力して子育てを行えるよう、父親の育児参加の促進を図ります。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
「育児や家事に参加する父親」の割合	77.6%	98.2%	100%	A

基準値：平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：平成24年秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	92%	8%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 育児に参加する父親が増えてきていることは子どもにとっても喜ばしいことである。
- 父親の育児に対する認識が大分変わってきている様子であり、喜ばしい。
- 今後も父親参加型の事業を増やしていくことが望ましい。

■課題と今後の対応方針

父親向けの育児講座を年2回から3回に増やすとともに、新たに父親向けの情報誌を作成して年間を通じて情報提供するなど父親の育児参加の促進に努めてきている。遊び場を利用する父親も増えてきており、事業効果が現れているものと認識している。

引き続き、家族が協力して子育てを行えるよう、父親の育児参加の促進に努めていく。

■22～23年度の取組・事業

- 父親の育児講座
- 両親学級（再掲）

■24～26年度の取組・事業

- 父親の育児講座
- 両親学級（再掲）

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策406 待機児童の解消（プラン100頁）

施策目標 総合的な解消策を講じ、平成23年度当初における待機児童の解消を目指します。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
年度当初待機児童数	122人	0人	0人	A

基準値：平成20年度実績値

中間値：平成23年度実績値

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	100%	0%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 年度途中に発生する待機児童の解消策も検討してほしい。
- 待機児童解消対策も整いつつあり、今後も期待する。

■課題と今後の対応方針

各種待機児童対策の実施により、23年度当初での待機児童は解消されている。今後は、年度途中にも発生する待機児童対策にも力を入れていく必要があり、対策を検討していく。

■22～23年度の取組・事業

- 保育所定員拡大整備事業
- 賃貸物件等を活用した保育所分園の設置
- 認定保育施設の認可保育所化
- 幼保連携施設の整備促進
- 認可保育所と認定保育施設の保育料格差是正

■24～26年度の取組・事業

- 保育所定員拡大整備事業
- 認定保育施設の認可保育所化
- 幼保連携施設の整備促進
- 認可保育所と認定保育施設の保育料格差是正

第4章 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策407 社会全体で子育て家庭を支えるしくみづくり（プラン103頁）

施策目標 子育て家庭が楽しく外出できるよう、店舗や施設に対するソフト・ハード両面からの支援を行います。

■目標指標の推移と総合評価

指標項目	基準値	中間値	26年度目標値	総合評価
①「子育てに関しての不安感や負担感を非常に感じる人」の割合（就学前児童の親）	15.0%	11.6%	0%	B
②「子育てに関しての不安感や負担感を非常に感じる人」の割合（小学校児童の親）	16.2%	13.2%	0%	

基準値：①、②いずれも平成20年度秋田市次世代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童の親）

中間値：①、②いずれも平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（小学校児童の親）

■次世代育成支援対策協議会委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	8%	92%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 街の中にオムツ替えの場所や授乳の場が設置された施設が増えれば、子どもを連れて外出することが楽しくなると思われることから、さらなる取組に期待する。
- 子育て家庭の外出等に関する支援の拡大に期待する。

■課題と今後の対応方針

23年度から、オムツ替えの場や授乳の場の設置など子育て家庭の利用に配慮された施設を「秋田市子育てにやさしい施設」として認定し、認定施設をホームページや赤ちゃんのえきマップ等で紹介するなど、子育て家庭の外出機会の拡大に取り組んできている。
引き続き、子育て家庭が楽しく外出できるよう、支援に努めていく。

■22～23年度の取組・事業

- 子育て家庭応援事業（（仮称）赤ちゃんの駅事業）
- NPO等の団体への支援
- 地域保健・福祉活動推進事業
- 地域子育て支援ネットワーク事業
- 在宅子育てサポート事業（わんぱくキッズのおでかけプラン）

■24～26年度の取組・事業

- 子育てにやさしい施設の認定
- 地域保健・福祉活動推進事業
- 地域子育て支援ネットワーク事業
- 在宅子育てサポート事業（わんぱくキッズのおでかけプラン）